

JVCケンウッド 決算説明会資料

2015年(平成27年)3月期 第3四半期

【資料中の略語】

CE	<p>カーエレクトロニクス(セグメント) 市販(事業) OEM(事業) HA(ホームオーディオ)(事業)</p>
PS	<p>プロフェッショナルシステム(セグメント) COM: コミュニケーションズ(事業) プロ: プロシステム(事業) ヘルスケア(事業) EFJT: EF Johnson Technologies, Inc. Zetron: Zetron, Inc.</p>
O&A	<p>光学&オーディオ(セグメント) AVアクセサリー(事業) クリエーション(カムコーダー)(事業) 映像光学(事業)</p>
SE	<p>ソフト&エンターテインメント(セグメント) コンテンツ(事業) 受託(事業)</p>

- 1. 2015年3月期 第3四半期決算概況**
- 2. 第3四半期決算の総括と
OEM事業拡大に向けた取り組み**
- 3. 2015年3月期 通期業績予想**

- 1. 2015年3月期 第3四半期決算概況**
2. 第3四半期決算の総括と
OEM事業拡大に向けた取り組み
3. 2015年3月期 通期業績予想

2015年3月期 3Q決算(累計) サマリー

- ❖ 売上高：事業売却影響(約128億円)などもあり減収(対前期90%)
- ❖ 営業利益：構造改革・事業改革効果から大幅改善
- ❖ 経常利益：3Q(累計)で黒字転換
- ❖ 純利益：米国子会社統合による法人税等調整額計上もあり大幅改善

(億円)

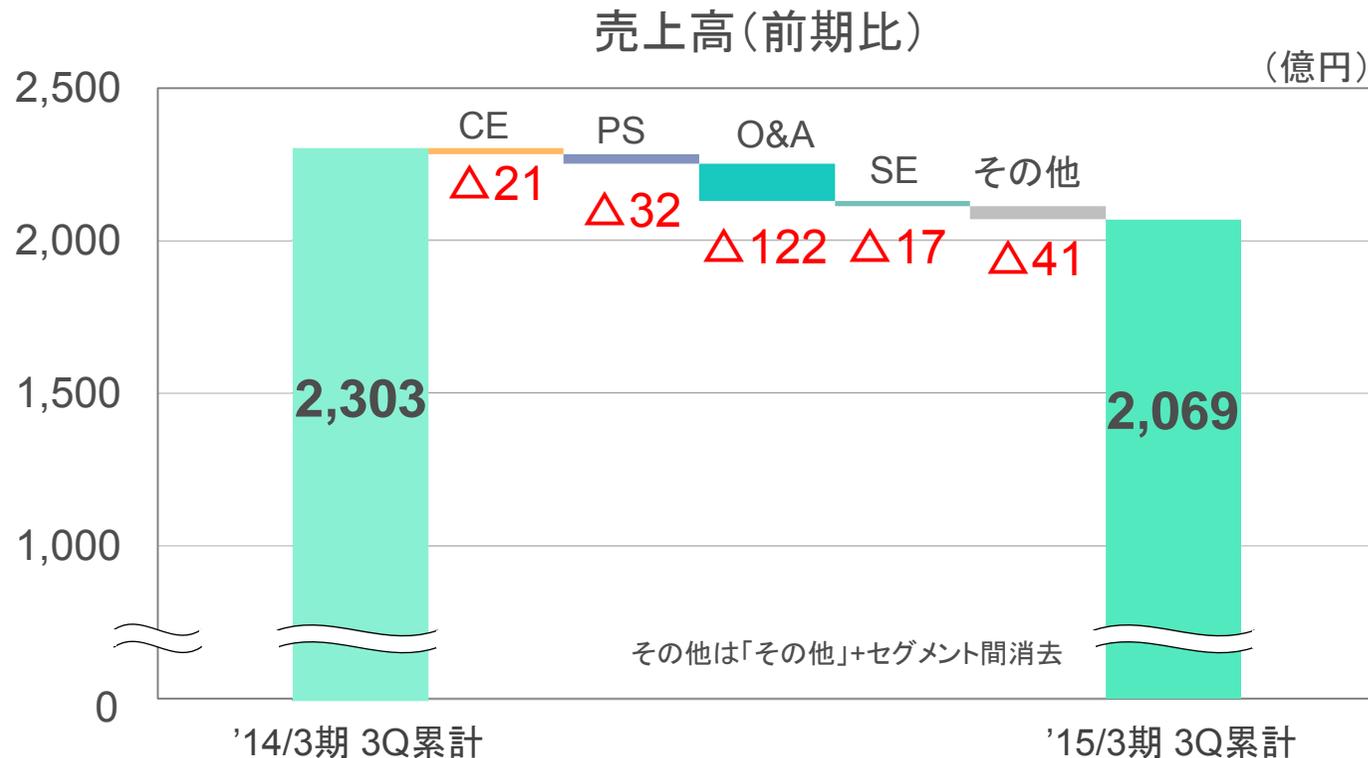
		売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
3 Q 累 計	'15/3期	2,069	25	1	△7
	'14/3期	2,303	△17	△45	△57
	前期比	△234	+42	+47	+50

損益為替レート		1Q	2Q	3Q	3Q累計
'15/3期	米ドル	約102円	約104円	約114円	約107円
	ユーロ	約140円	約138円	約143円	約140円
'14/3期	米ドル	約99円	約99円	約100円	約99円
	ユーロ	約129円	約131円	約137円	約132円

2015年3月期 3Q決算(累計) 連結売上高(セグメント別)

❖ 3Q累計実績: 2,069億円(前期比 $\Delta 10.1\%$) [減収]

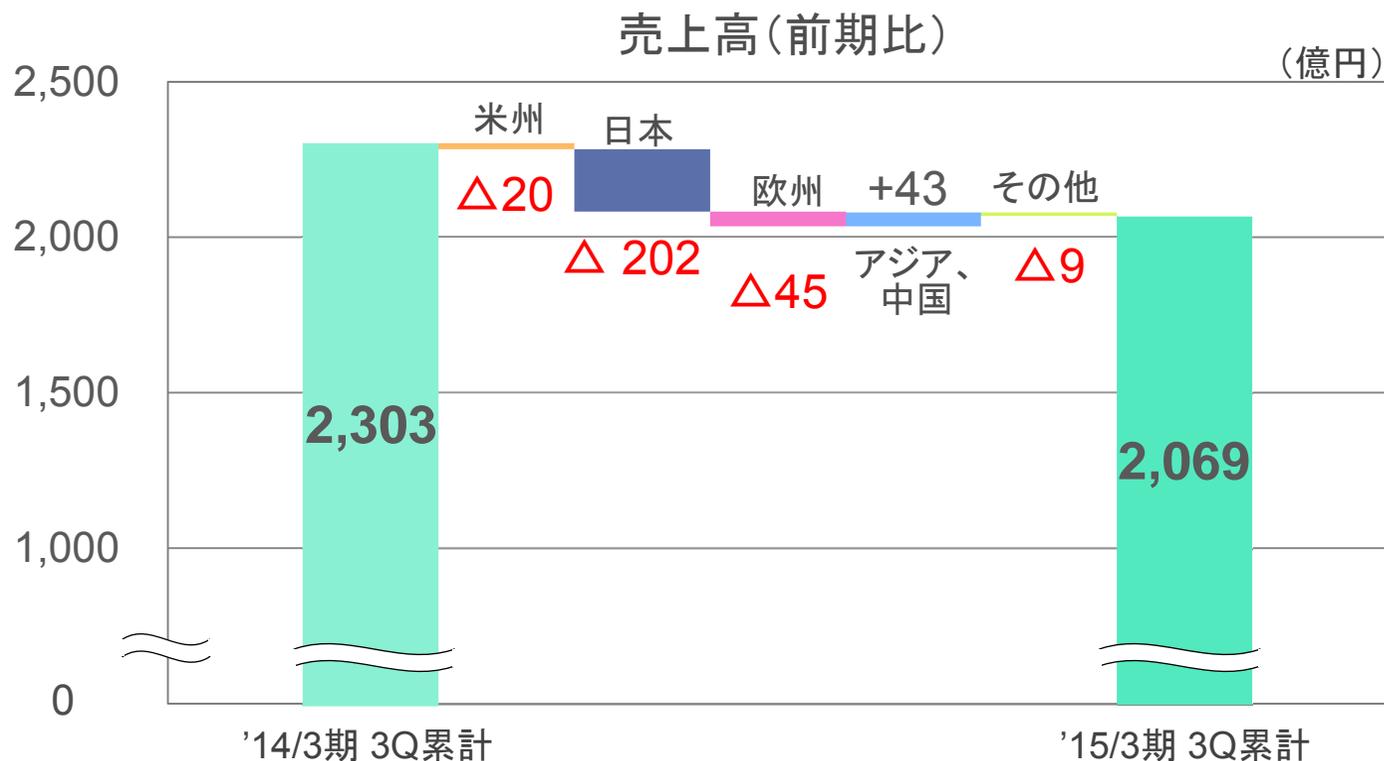
- CE: 用品販売増加などからOEM増収も、HA商品絞り込みが影響
- PS: ジオビット売却影響(約94億円)を、COM端末の増収で過半カバー
- O&A: 民生カムコーダーの商品絞り込み(高採算モデル特化)
- SE: 作品構成の変更や一部主力製品の販売延期が影響
- その他: 米国子会社(ディスク製造受託)売却が影響(約34億円)



2015年3月期 3Q決算(累計) 連結売上高(地域別)

❖ 3Q累計実績: 2,069億円(前期比 $\Delta 10.1\%$) [減収]

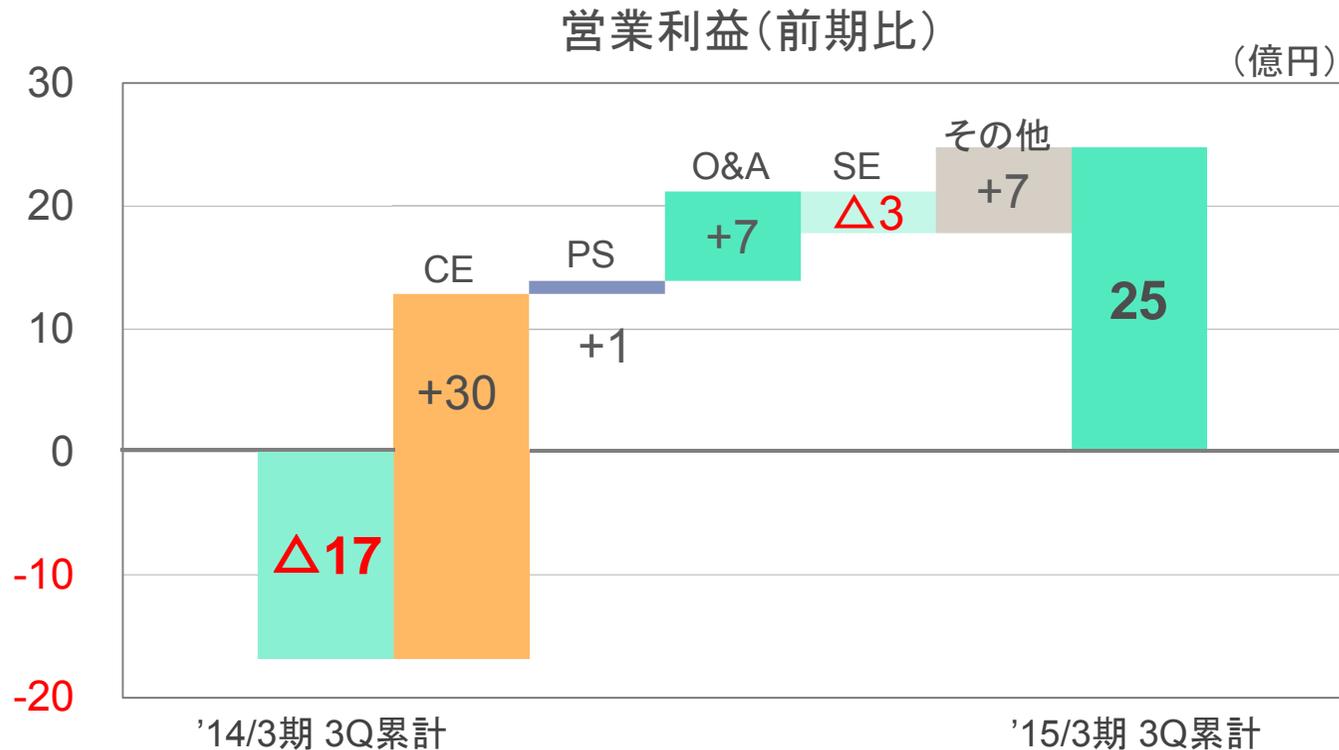
- アジア・中国: 用品販売の好調継続、シンワ連結化などから増収
- 日本: ジオビット売却や民生カムコーダー市場縮小などから減収
- 米州: 子会社売却で減収も、3Q(単独)はCOM端末、CE市販好調で増収
- 欧州: 市況冷え込み継続。O&A、CE販売減の影響などから減収



2015年3月期 3Q決算(累計) 連結営業利益(セグメント別)

❖ 3Q累計実績:25億円(前期比 +42億円) [黒字転換]

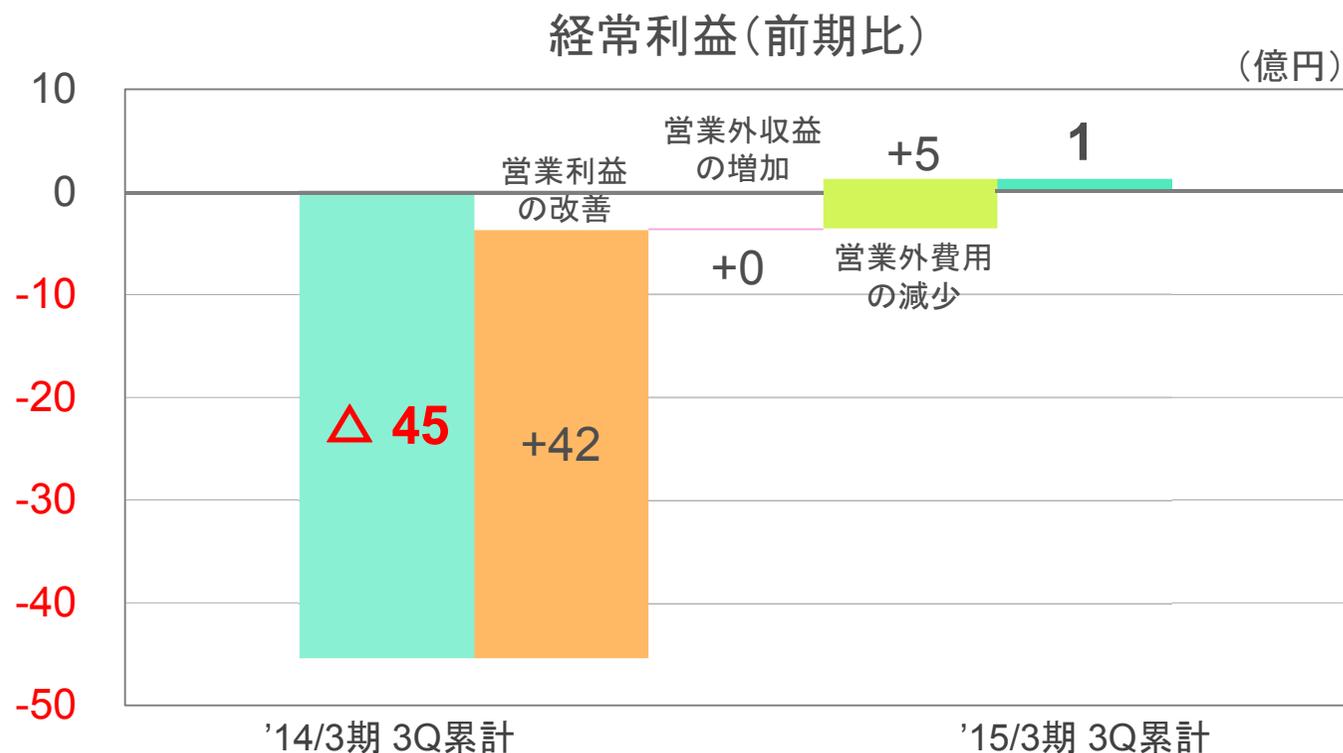
- CE:事業改革(原価総改革、販売改革など)により、黒字転換
- O&A:減収ながら、事業改革によってクリエイションが大幅改善。固定費削減効果も加わり、黒字転換



2015年3月期 3Q決算(累計) 連結経常利益

❖ 3Q累計実績: 1億円(前期比 +47億円)[黒字転換]

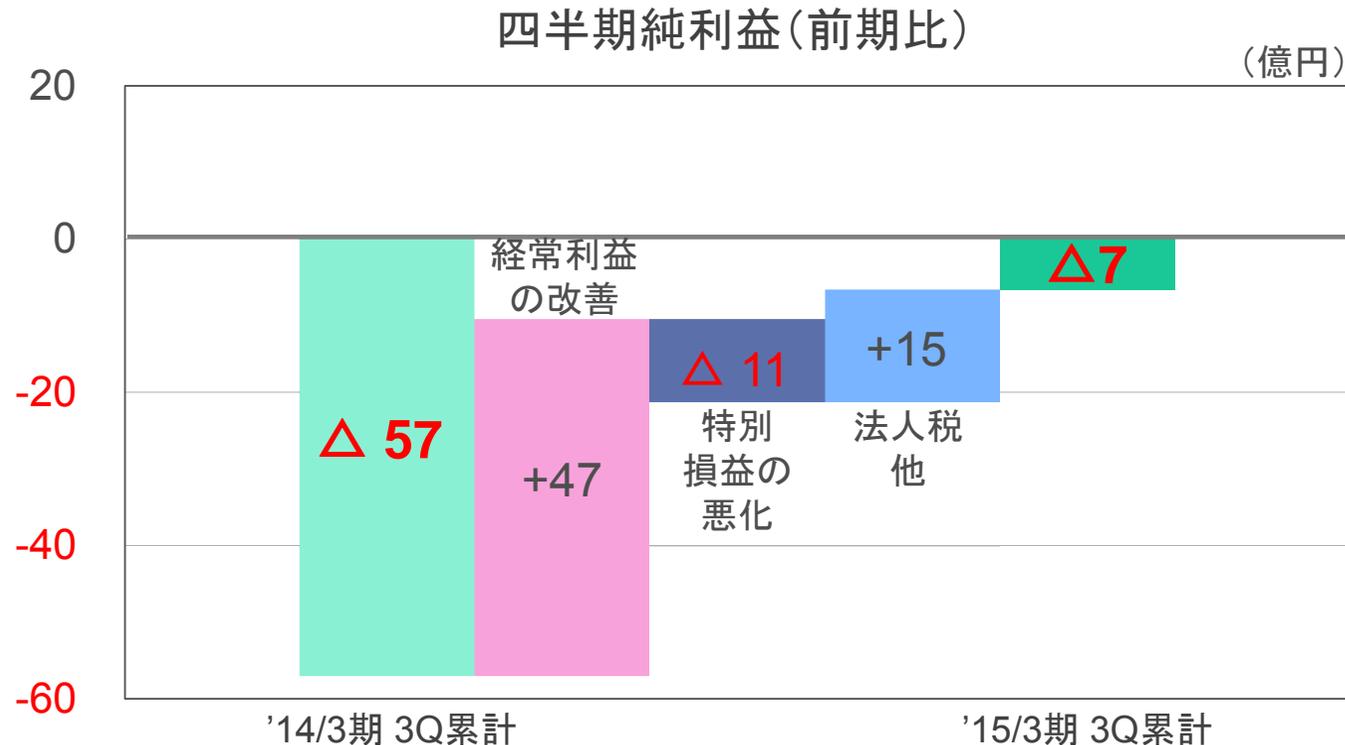
- 営業利益改善に加え、営業外損益も、借入手数料減少や受取配当金増加などから5億円改善、黒字転換



2015年3月期 3Q決算(累計) 連結四半期純利益

❖ 3Q累計実績: $\Delta 7$ 億円(前期比 +50億円)

- 1Qに米国子会社売却に伴う一時損失(11億円)発生も、
経常利益改善に加え、米国子会社統合による法人税等
調整額を $\Delta 35$ 億円(Δ は利益)計上などから、大幅良化



2015年3月期 3Q決算 貸借対照表サマリー

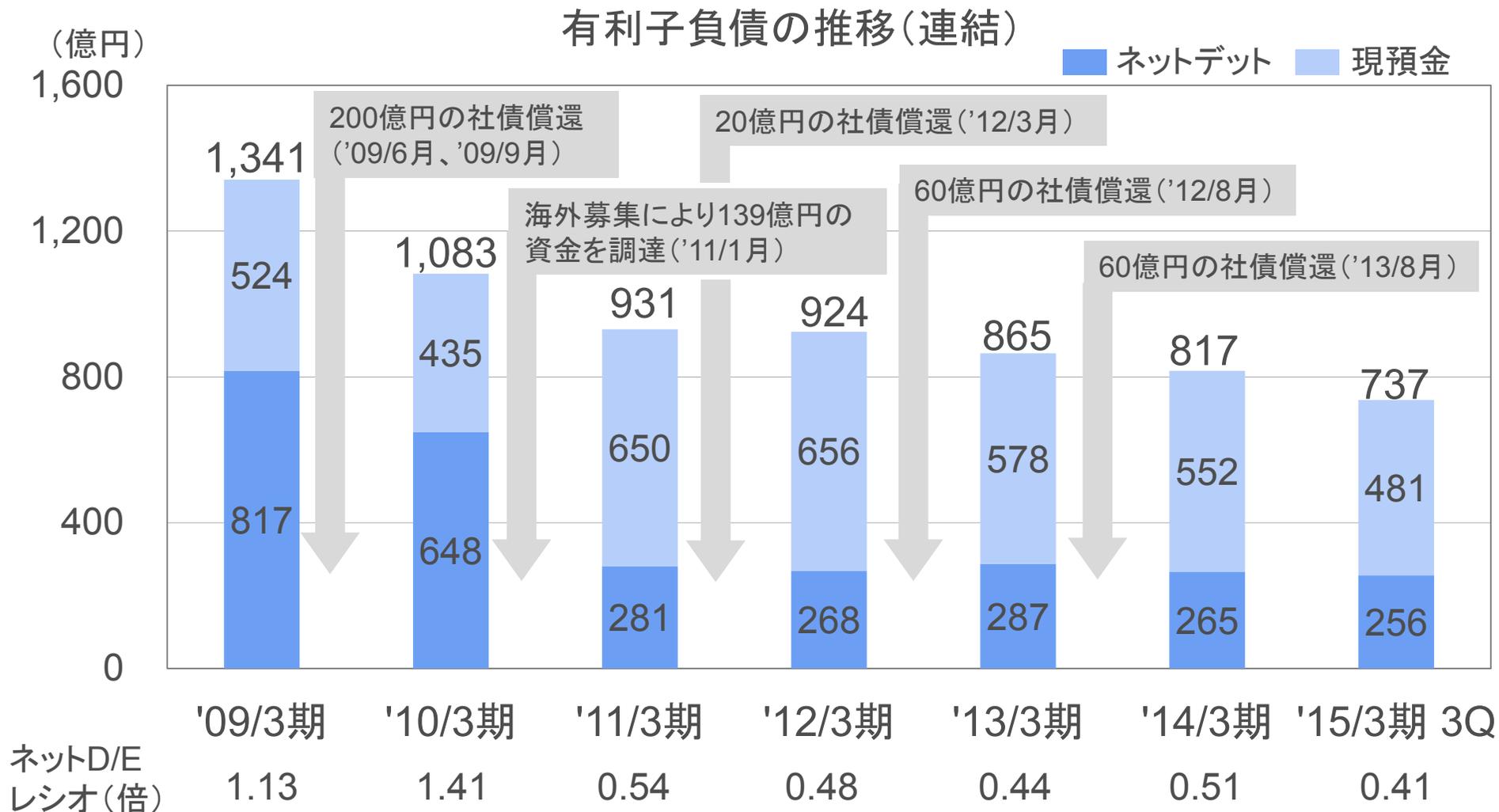
- ❖ 総資産：借入金返済などによる現預金の減少、受取手形・売掛金が減少も、たな卸資産の増加などから、11億円増
- ❖ 有利子負債（借入金と社債の合計）：80億円減
- ❖ 自己資本比率：3.6%ポイント改善し、23.0%

（億円）

	'14/3期末	'15/3期 3Q末	前期末増減
総資産	2,672	2,683	+11
有利子負債	817	737	△80
ネットデット	265	256	△9
ネットD／Eレシオ(倍)	0.51	0.41	△0.10
資本剰余金	459	456	△3
利益剰余金	174	169	△5
純資産	598	701	+103
自己資本	517	618	+100
自己資本比率(%)	19.4	23.0	+3.6

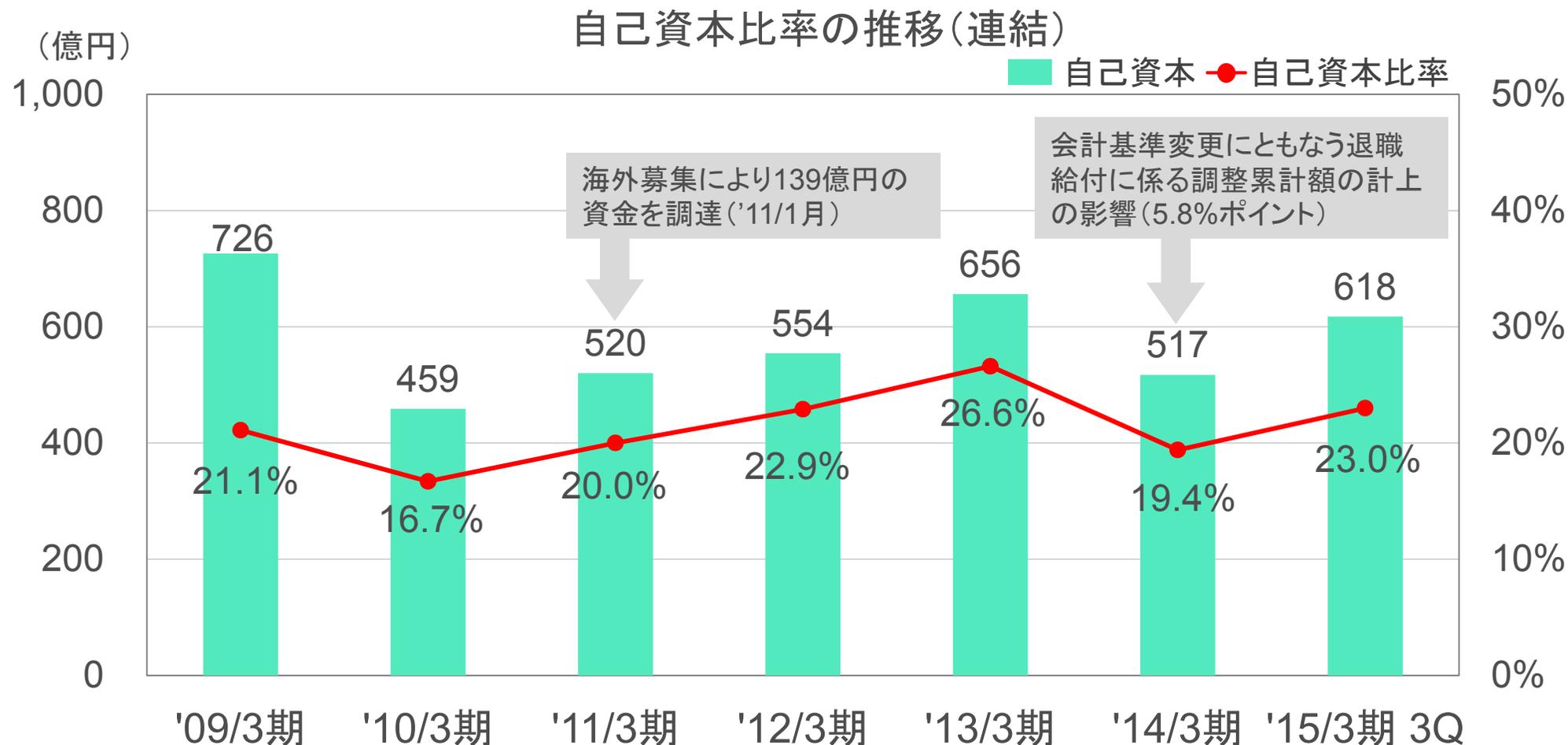
2015年3月期 3Q決算 有利子負債

❖ 有利子負債、ネットデットとも、段階的に減少中



2015年3月期 3Q決算 自己資本比率

❖ 主要通貨に対する円安影響で為替換算調整勘定が増加したことから、純資産が増加。自己資本比率は23%に回復



2015年3月期 3Q決算(累計) キャッシュ・フローサマリー

- ❖ 前期実施の構造改革にともなう費用支出(約64億円)などから、営業キャッシュ・フローが減少し、フリー・キャッシュ・フローはマイナス水準に

(億円)

	'12/3期	'13/3期	'14/3期	'15/3期 3Q累計	参考値 '14/3期3Q累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	89	98	149	48	72
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 65	△ 134	△ 107	△ 68	△ 61
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 15	△ 86	△ 96	△ 87	△ 50
フリー・キャッシュ・フロー	24	△ 36	43	△ 20	10

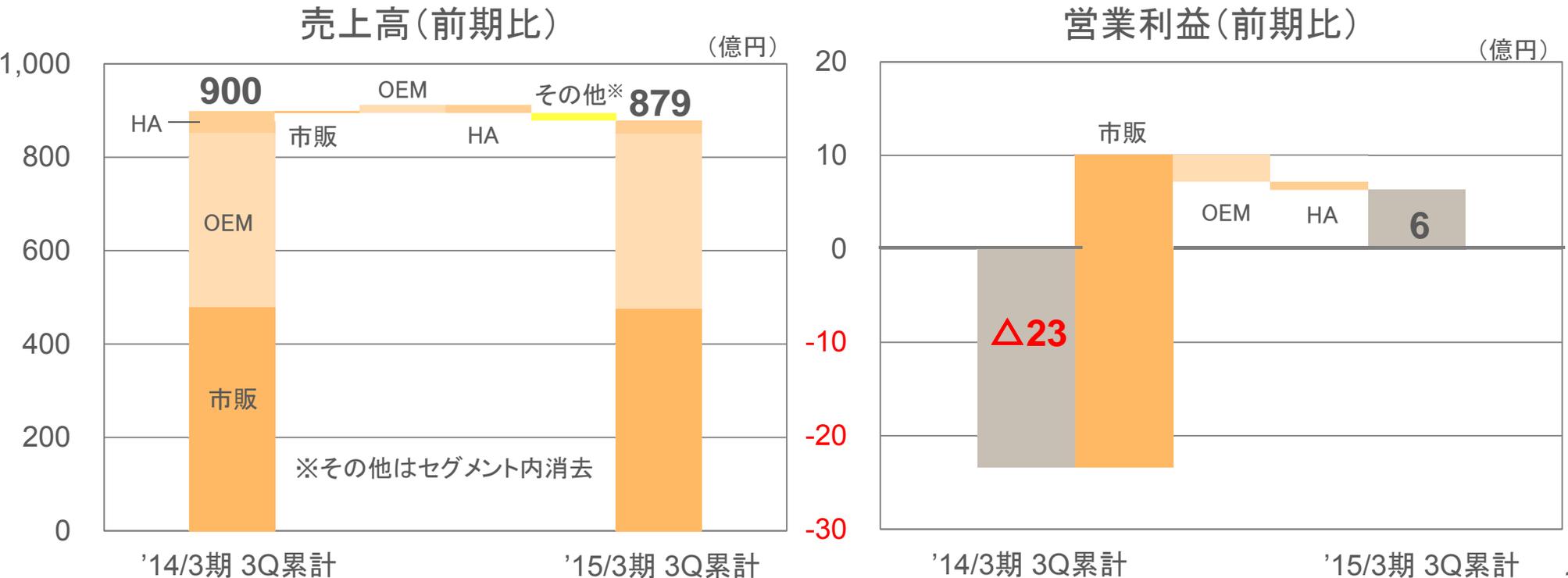
※ フリー・キャッシュ・フロー＝営業活動によるキャッシュ・フロー＋投資活動によるキャッシュ・フロー

(参考)セグメント別情報

2015年3月期 3Q決算(累計) カーエレクトロニクス

- ❖ 売上高：市販は米州・アジアが好調も、消費増税影響などから国内は前期並み。OEMは、好調なアジア用品販売とシンワ連結化から増収。HA*は市況悪化で減収
- ❖ 営業利益：OEMが開発費増から損失拡大、HAも市況悪化により損失拡大も、市販が事業改革効果から大幅に損益改善し、CE全体では黒字転換

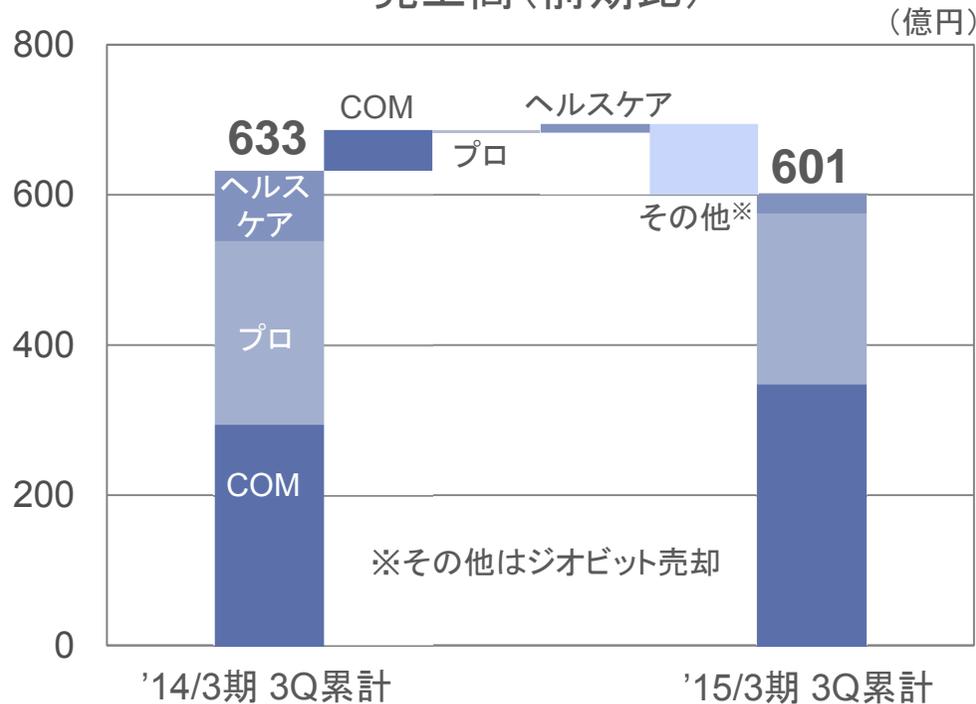
* HA・・・ホームオーディオ



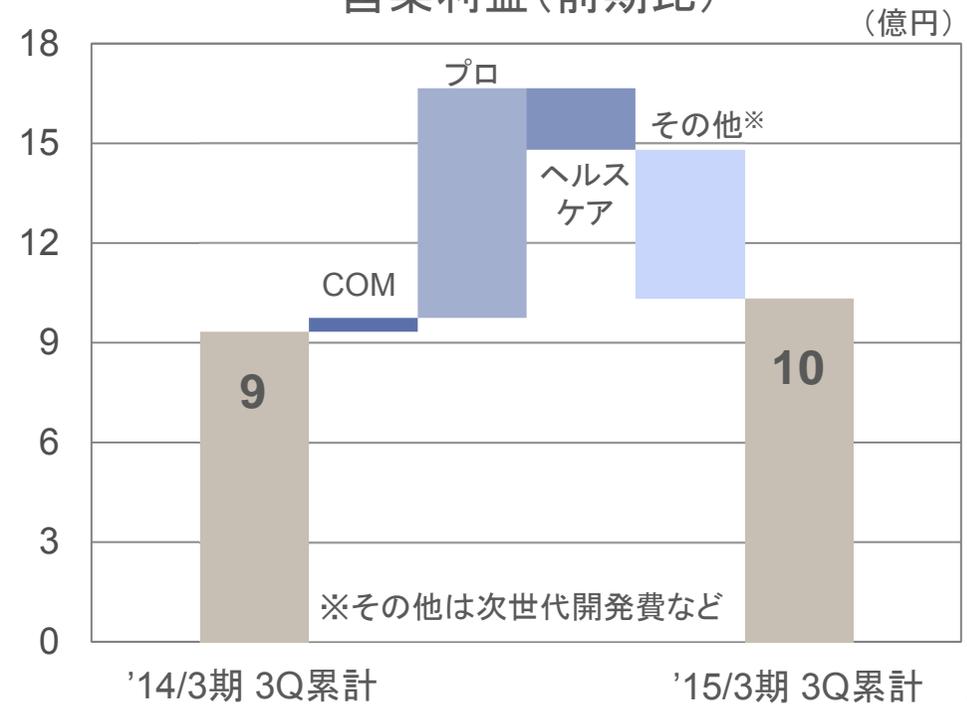
2015年3月期 3Q決算(累計) プロフェッショナルシステム

- ❖ 売上高: COMは最大市場の北米が回復、買収効果(EFJT)もあり増収。プロは、海外減を国内でカバーし前年並み。ヘルスケアは、東特の売上が期初より寄与し増収
- ❖ 営業利益: COMは、EFJTの案件受注の期ズレ影響受けるも、Zetronの販売回復、北米が回復し増益。プロも各種改革効果により損失が大きく減少

売上高(前期比)



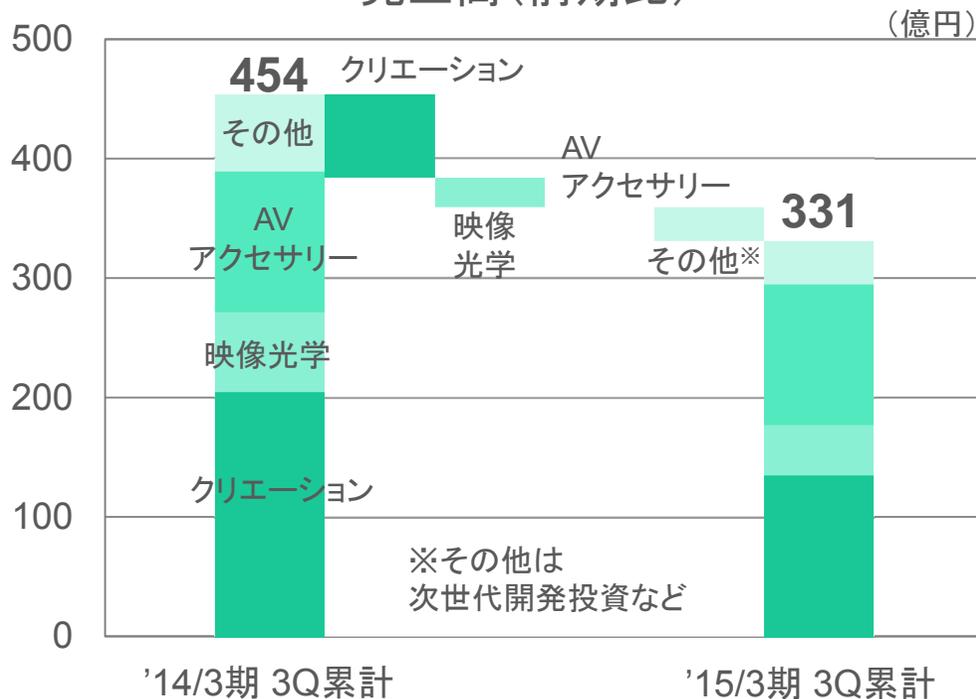
営業利益(前期比)



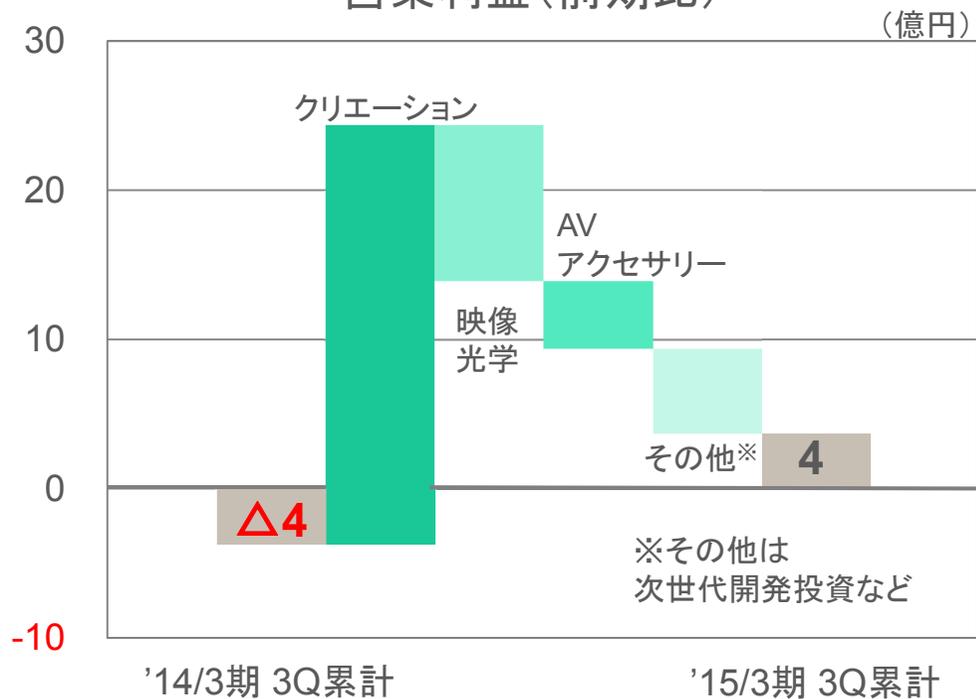
2015年3月期 3Q決算(累計) 光学&オーディオ

- ❖ 売上高：民生カムコーダーの商品絞り込み影響から、クリエイションは大幅減収。映像光学はプロジェクター販売減が影響。AVアクセサリは前期並み
- ❖ 営業利益：事業改革が奏功し、クリエイションは3Q(累計)で黒字転換。AVアクセサリが商品ミックス変化から減益も、O&A全体では黒字転換

売上高(前期比)



営業利益(前期比)

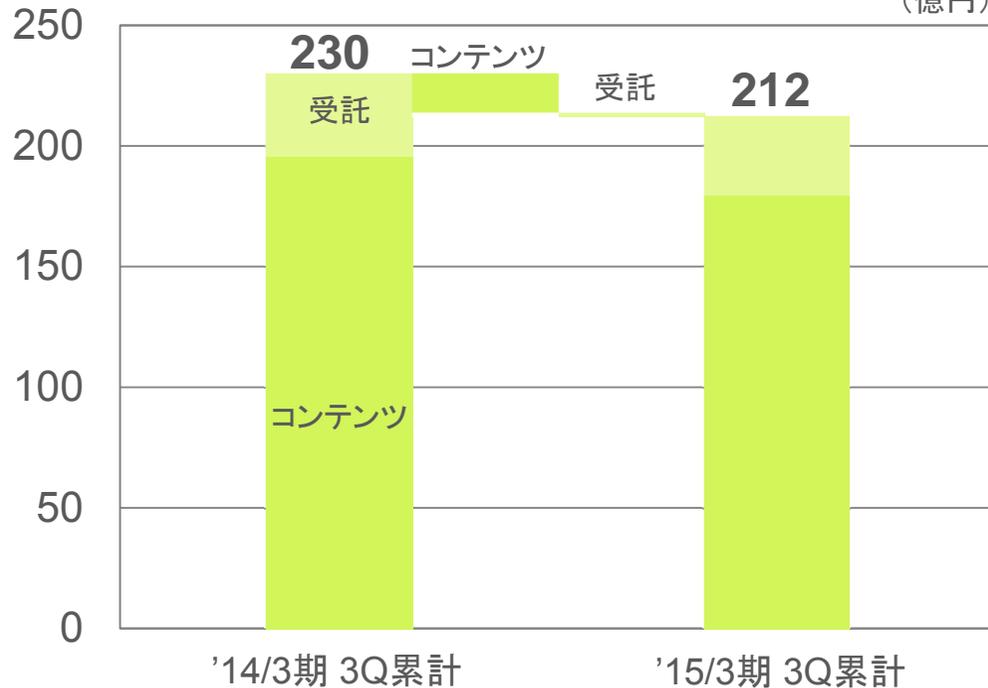


2015年3月期 3Q決算(累計) ソフト&エンターテインメント

- ❖ 売上高: コンテンツは作品編成の変更、一部主力作品の発売延期から減収も、4Qで挽回見込。受託は市場の変化等による外部受託商品の減少から減収
- ❖ 営業利益: コンテンツ、受託ともに減収影響から減益

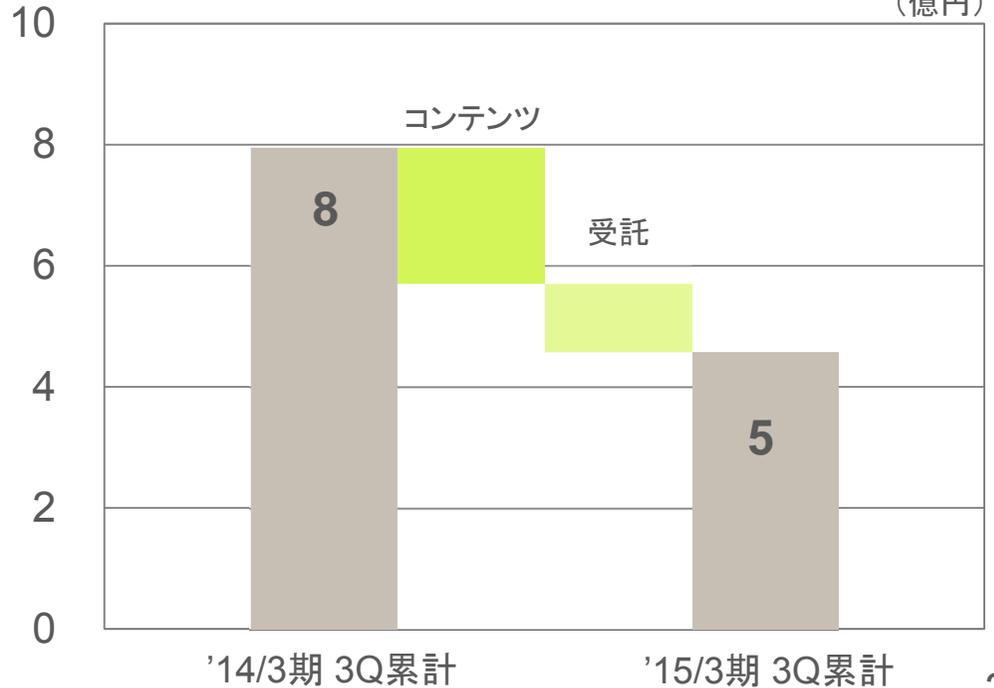
売上高(前期比)

(億円)



営業利益(前期比)

(億円)



1. 2015年3月期 第3四半期決算概況
- 2. 第3四半期決算の総括と
OEM事業拡大に向けた取り組み**
3. 2015年3月期 通期業績予想

「業績は引き続き着実に回復」

- ❖ 構造・事業改革効果が3Qも確実に発現。コア事業集中のための事業売却、商品絞り込みなどにより減収となるも、3Q累計の営業利益は前期比42億円増となり、全セグメントで黒字を達成。経常利益は黒字転換
- ❖ 主力事業のCE市販とCOM(端末事業)の力強い回復により、この2事業で3Q累計営業利益を大きく牽引
- ❖ 事業改革によりクリエイション(カムコーダー)が3Q累計で黒字化し、O&A全体でも黒字転換

海外拠点再編の進捗

❖ 米州

- 北米販社統合 (2社→1社): '14/10月実施済み
- カナダ販社統合 (3社→1社): '15/4月実施予定

❖ 欧州

- 英国販社統合 (3社→1社): 4Q中に実施予定
- ドイツ販社統合 (2社→1社): '14/11月に実施済
- 東欧販社の再編統廃合: '15/4月実施予定

❖ アジア

- マレーシア工場資産譲渡契約締結 ('14/11月実施済み): '15/3月中に譲渡予定
- シンガポールR&D拠点統合: '15/4月実施予定



販売拡大、事業体質強化に向けた海外拠点再編を終了

OEM事業(純正部門)拡大戦略

- ❖ OEM事業の純正部門の拡大に向けて、「M&A」と「次世代事業開発」を推進
 - **欧州の車載用部品事業会社の子会社化**
主に欧州の主要自動車メーカーに車載スピーカーやアンプ、アンテナを納める「ASK Industries S.p.A.」を子会社化、純正事業拡大と強固な基盤を獲得
 - **先進のデジタルコックピットシステムの開発**
ヘッドアップディスプレイや車載カメラ、電子ミラーなど先進のデジタルコックピットシステムの開発を加速、商用化に向けてコンセプトモデルを米CESで発表・展示

OEM事業(純正部門)拡大戦略 ①M&A

❖ 欧州の「ASK Industries S.p.A.(ASK社)」を子会社化

■ 純正ビジネス拡大に向けた基盤を獲得

- ASK社の子会社化を通じ、欧州の主要な自動車メーカーとの強固なパートナーシップを獲得
- 欧州・ブラジル他の工場、R&Dセンターなどの基盤を確保
- 2015年4月に子会社化を予定
- 大幅増収を続けており、今後も継続した成長が期待できる
売上・利益とも来期の連結業績の成長に寄与



単位:百万円

	2012年12月期	2013年12月期	2014年12月期
売上高	17,373	19,921	21,614
営業利益	323	489	935



スピーカー



アンプ



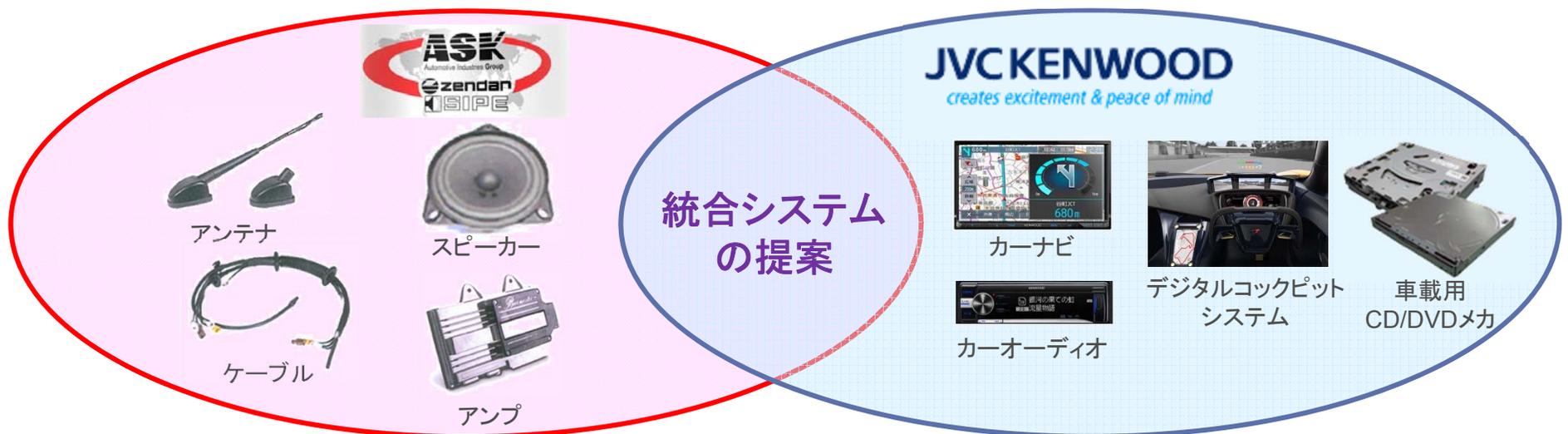
アンテナ



ケーブル

■ 期待される統合効果

- フォルクスワーゲングループやダイムラーグループ、フィアットグループ、BMWといった欧州の主要自動車メーカーへの純正ビジネスの獲得。スピーカーのシェア2位
- カーナビ・カーオーディオからスピーカー・アンプまで一貫したシステムとしての供給が可能に
- カーナビ・カーオーディオの純正ビジネス進出や、デジタルコックピットシステムの商用化に向けた進出機会の獲得



OEM事業(純正部門)拡大戦略 ②次世代事業開発

❖ デジタルコックピットシステムの開発を推進

- 各種コア技術を保有する数少ない専門メーカー
 - センシングデバイスからADAS(先進運転支援システム)、それらをドライバーに伝えるディスプレイまで、各種コア技術をグループ内で保有する強みを活かして開発を促進
- 「CES 2015」でコンセプトモデルを発表・展示
 - デジタルコックピットシステムの商用化に向けて、マクラーレン・オートモーティブ社「McLaren 650S Spider」にそのコンセプトモデルを搭載したショーカーを発表・展示



「McLaren 650S Spider」をベースとしたショーカー



デジタルコックピットシステムのイメージ

OEM事業(純正部門)拡大戦略 ②次世代事業開発

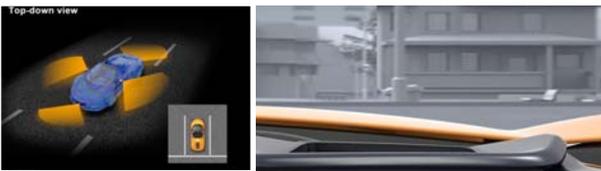
- ❖ 実用車に搭載することで安全・安心な自動車社会の実現へ
 - 革新的運転支援システムの商用化を目指す



ヘッドアップディスプレイ



フルHD電子ミラー



全周囲俯瞰カメラシステム



遠赤外線カメラシステム

1. 2015年3月期 第3四半期決算概況
2. 第3四半期決算の総括と
OEM事業拡大に向けた取り組み
- 3. 2015年3月期 通期業績予想**

2015年3月期 通期業績予想

❖ 米国子会社統合にともなう繰延税金資産計上などにより 当期純利益を30億円に修正

- CE、COM(端末)の復調が顕著に
- 構造改革効果も着実に発現、3Q累計の営業利益は前期比で42億円改善
- 4Qも引き続きCE、COM(端末)の復調、O&Aの改善、構造改革効果の発現を見込む
- 売上高、営業利益、経常利益は期初予想から変更せず、当期純利益は30億円に上方修正

(億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
'15/3期(今回修正予想)	3,000	75	45	30
'15/3期(期初予想)	3,000	75	45	5
差	0	0	0	+25
(参考)'14/3期	3,163	44	△1	△66

JVC KENWOOD

creates excitement & peace of mind

このプレゼンテーション資料に記載されている記述のうち、将来を推定する表現については、将来見通しに関する記述に該当します。これら将来見通しに関する記述は、既知または未知のリスクおよび不確実性並びにその他の要因が内在しており、実際の業績とは大幅に異なる結果をもたらす恐れがあります。これらの記述は本プレゼンテーション資料発行時点のものであり、経済情勢や市場環境によって当社の業績に影響がある場合、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。実際の業績に対し影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、(1) 主要市場(日本、米州、欧州およびアジアなど)の経済状況および製品需給の急激な変動、(2) 国内外の主要市場における貿易規制等各種規制、(3) ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、(4) 資本市場における相場の大幅な変動、(5) 急激な技術変化等による社会インフラの変動、などがあります。ただし、業績に影響を与えうる要素としてはこれらに限るものではありません。